

令和7年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立御植小学校

1 自己評価書

教育目標 確かな学力と豊かな心をもち、地域を愛するたくましい児童の育成											
基本方針		(1)個性の尊重と伸長を基盤とし、地域の自然や人々とのかかわり合いを通して、豊かな心を育み、心身ともにたくましい児童の育成に努める。 (2)児童・保護者・地域から信頼される、安心で温もりのある学校づくりに努める。 (3)基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、個々の児童の可能性を最大限に伸ばし、生活や学習上の困難を改善・克服するための適切な指導や支援に努める。									
本年度重点目標		(1) 家庭や地域と連携した、地域とともにある学校づくりの推進 (2) 生きる力を育むための特色ある学校経営の推進 (3) 現職教育の充実と活性化									
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価					
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力(学習の目標)」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	A A	A					
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A					
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A	A					
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A					
	③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A					
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A C A	B					
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A					
				(成果と課題) 親子読書の啓発、「ポイ活で読みたい本を買っちゃおう!」活動、様々な形での読み聞かせ等、児童の読書への関心を高める取組は、できる限り行っているが、保護者アンケートの評価が低い。保護者との連携・協力を図っていききたい。 すららドリルやEILSを活用した課題(デジタル)と漢字練習・計算練習等(アナログ)の課題のバランスを考えなければならない。							
				(改善策等) 少人数の学級においては、多様な考えや意見や考えにふれることは少ないが、読書をする事で多様な考え方にふれることができる。家庭と協力して読書活動を充実させたい。ノーブルライトデーを設定するなどの取組を家庭と連携して進めていききたい。 デジタルとアナログのバランスを考えた課題の出し方を研修し、個別最適な学びを推進したい。							
	評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価				
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A				
		②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A C A	A				
				不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A				
				いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A				
				③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A B A	A		
						④	自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的に行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A	A
								自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A	
(成果と課題) 運動会、音楽会、学習発表会、陸上大会、駅伝大会、各種作品応募等、児童の能力を最大限に引き出し、称賛することで自己肯定感、自己有用感が高まった。児童に寄り添った生徒指導の在り方について研修を深めたい。											
(改善策等) 今後も児童が様々な場面で活躍できるようにし、成就感や達成感を体験させる。魅力ある学校を目指し、児童が学校に来ることが楽しみになるよう、全教職員が、よりよい人間関係づくりと分かる授業実践に努める。言葉遣いや温かい言葉掛けについて児童に振り替えさせる。											

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	B	A
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A	
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。（枠を移動しました。）	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
	(成果と課題) 2学期は、大きな行事が続き時間外勤務時間が増えた。小規模校のため一人一人の業務量が多く、業務改善にも限界がある。今後何でも話し合える職員室を目指し、互いにサポートしていきたい。					
(改善策等) 業務負担を軽減するために、保護者や地域の方との連携を強化する。田植えや稲刈り、もちつき等保護者と連携ができており、今後も継続する。 放課後の様々な練習は教職員の負担となるが、児童の成長を一番の喜びとらえ、全教職員が協力して対応していく。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた（校内体制）。	・教師アンケート	A	A
				・教師アンケート	A	
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化（地域・保護者へ）を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	(成果と課題) 学校運営協議会に保護者も参加していただき、取組の「見える化」を図ることができた。様々な意見を教育活動に取り入れることができた。 学校だよりやホームページで具体的な児童の様子を伝えることができた。ホームページの閲覧数も増えた。今後も学級担任との連携を密にし、ホームページの充実を図っていきたい。					
(改善策等) 保護者や地域の方が来校する機会を増やしていきたい。保護者や地域の方が参加しやすい学校行事の在り方を模索していく。 地域を愛し、地域をほこりに思う児童を育成するために、地域ボランティアの方の協力を得ながら、地域をフィールドワークにした体験活動を充実させる。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満